

令和3年度 歯学部附属歯科技工専門学校
学校関係者評価 報告書

1 目的

日本大学歯学部附属歯科技工専門学校（以下「本校という」）で実施した自己点検・評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

2 基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成25年3月策定）を参照し、複数名の評価者により学校関係者評価を行う。

- (1) 評価項目（本校の全教職員が意識して取り組むことができる具体的目標）を設定する。また、学校関係者評価実施前に、当該評価項目について本校において自己点検・評価を行い、4段階の取組評価を付した上で、評価者に依頼する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

<評価項目>

①多様な能力が習得できるように、アクティブ・ラーニング等の手法を取り入れた授業が展開されているか。
②学業成績不振が要因で留年，休学，退学する学生の減少に向けた対策がとられているか。
③人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。
④【重点目標】学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。

- (2) 各評価項目について、評価者は評価を行い、その結果をまとめるとともに、取組評価を4段階で評価する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

3 評価方法

- ① 評価は、本校からの提供資料によるほか、授業、学校行事等の見学、校長・教職員及び学生等との面談により行う。
- ② 本校が「学校関係者評価票」（別紙）の各評価項目について、資料等を交え、評価結果及び取組状況等を学外評価者に説明する。
- ③ 学外評価者が、上記を基に、以下のとおり評価を行う。
- (1) 各評価項目の「取組状況・評価に対する意見等」・「優れている点、継続してほしい点」・「問題点・要望等」・「その他意見等」を記述する。

(2) 取組評価については、次の4段階で評価する。

(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

- ④ 評価者の互選による代表者は、各評価者の学校関係評価票を取りまとめ、学校関係者評価報告書にて「評価結果（総評）」を作成する。

4 学校関係者評価協議会構成員

①学外評価者

(1) 卒業生

藤 森 伸 (昭和55年歯学部附属歯科技工専門学校卒業生)

(2) 学校の専門分野における関係団体・関係業界

小笠原 明 (東京都歯科技工士会副会長)

(3) 地域住民

間 中 道 郎

②日本大学歯学部附属歯科技工専門学校教職員

松 村 英 雄 校長

高 津 匡 樹 教務主任

今 井 秀 行 副教務主任

市 川 裕 美 専任教員

木 内 香 専任教員

岡 村 佐恵美 教務課主任

5 協議会開催日時

第1回 令和3年10月27日(水) 16時00分～16時30分

第2回 令和3年11月9日(火) 19時00分～19時35分

令和3年11月12日(金) 19時30分～20時45分

第3回 令和3年12月17日(金) 16時00分～16時40分

6 評価結果（総評）

全体的に見て、取組状況について最善を尽くしていると思う。3年間のカリキュラムも授業時間を有効に使用し、基礎から応用へのカリキュラムが実習を含め編成されている。また、学生一人一人と向き合い状況の把握と不安解消に努め、成績不振者には、補講など熱心に行っている。

問題点として、歯科用ソフト(CAD/CAM)が出来る人材が求められている今、基礎知識の習得はもちろんだが、実際に機械を操作できような授業を積極的に取り入れて欲しい。

以 上